

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和6年12月8日(日)

会場：ソニックシティ

テーマ：Challenge!

サブテーマ：～多様化するニーズへの実践と進化～



「一般演題募集締め切りについて」

第52回埼玉県医学検査学会
学術部 佐藤 彩香

第52回埼玉県医学検査学会で学術部を務めさせていただきます、自治医科大学附属さいたま医療センターの佐藤彩香と申します。

学会の演題受付が5月1日(水)から開始しておりますが、締め切りが7月17日(水)までとなっております。いよいよ締め切りまで約1ヶ月となりました。

今回の学会テーマは「Challenge!」まだ学会発表の経験がない方や、日常業務にも慣れ始め次のステップへ踏み出したい方、この機会にChallenge!してみませんか?

例年、就職5年未満の方の演題発表も多く見受けられますので、自分には早いと思わず若手の皆様Challenge!してみてください。もちろん何度も学会発表をしたことのあるベテランの皆様も、新たな分野や角度からエントリーするなど、Challenge!の機会にしていいただければと思います。

エントリーから学会当日まで多くの時間を費やすことになるとは思います。終わった後は普段感じるこない達成感が待っていると思います。

皆様から多数エントリーしていただけることを、実行委員一同心よりお待ちしております。

「初めての学会発表」

第52回埼玉県医学検査学会
学術部 吉田 雅基

第52回埼玉県医学検査学会にて学術部を担当しております、埼玉県済生会川口総合病院の吉田雅基と申します。

私の初めての学会発表は、入職して2年目の埼玉県医学検査学会でした。当時の私は知識がまだまだ浅く、発表のテーマもほとんど上司に決めてもらったの発表でした。テーマが決まってからもデータ収集、抄録やスライドの作成など日常業務が終わってから発表の準備をしていくのが中々大

変だったことを憶えています。また当時はコロナ禍ということもありポスター発表のみの学会でした。ポスター発表では、同じ会場内で複数の発表が同時に行われます。できるだけ聴き手の関心を惹きやすく、内容が分かりやすいポスター作成が重要となってくるので、口頭発表とはまた違ったやりがいと達成感を味わうことができました。

学会発表するにあたっては、自分自身で文献などを調べて知識を深掘りしていくことが必要になってくるかと思います。改めて調べてみると自分の中でよく理解できている部分とそうでない部分が明確になってきます。学会発表は今一度自分自身を見つめ直す良いきっかけにもなると思うので、この機会にぜひ発表をしてみませんか。皆様が参加して良かった・発表して良かったと思える学会となるよう実行委員として努めて参ります。



令和6年春の叙勲受章について、 埼臨技・各位に感謝申し上げます

埼玉県臨床検査技師会前副会長
島村 益広

このたび、令和6年春の叙勲におきまして、私、島村益広は、埼玉臨床検査技師会から推薦をしていただき、瑞宝双光章を受章する榮譽に浴しました。

私は、昭和63年に輸血検査研究班の班員として埼臨技活動に初めて参画し、その後、平成3年に理事就任、平成30年6月まで北部地区担当、会計担当、同部長、副会長を務めさせていただき、平成の殆どの期間を埼臨技の理事として活動させていただきました。

公式には、長年にわたる臨床検査技師としての保健衛生功労が認められた形での受章ですが、検査技師として目立った業績・実績のない私が受章できたのは、ひとえに、埼臨技の会員・賛助会員、そして理事会、諸先輩方の支えがあったることと心より感謝申し上げます。



5月2日、前日の嵐のような風雨とは対照的な好天の中、埼玉県知事公館において、大野元裕埼玉県知事、副知事、部長、局長等埼玉県幹部の出席のもと伝達式が執り行われ、大野知事から伝達式の出席者33名に勲記、勲章が授与されました。伝達式終了後には、コロナにおける行動制限で中止されていたティーパーティー（紅白まんじゅうや県産銘菓が出されました）が開催され、他受章者や県幹部との歓談、公館庭園での県知事とのツーショット記念撮影などが行われ散会となりました。

5月10日、全国の厚生労働省所管の中受章以下の受章者と配偶者の約500人がホテルニューオータニ鳳凰の間に集められ、厚生労働副大臣（大臣は公務のため欠席）と厚労省幹部出席のもと厚労省の伝達式が執り行われ、その後、バス20台に分乗して一路、皇居豊明殿へ向かいました。豊明殿では消防庁所管の受章者約200人と同席となり、天皇陛下に拝謁しました。受章者代表からのお礼、陛下からお祝いのお言葉があり、壇上から降りた陛下が最前列に座っていた5～6人には直接ご質問をされていました。陛下の退室後、バス毎に記念写真の撮影、バスで集合場所のニューオータニで解散となりました。待ち時間が長く、疲れた一日ではありましたが、貴重な経験となりました。

この受章を励みに、もう少し埼臨技に貢献できるよう努めて参る所存でございます。今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。

末筆ではございますが、今回の推薦に際しまして、神山会長をはじめ推薦調書等の作成に多大なご尽力していただいた濱本事務局長、山下事務部長に深謝いたします。

研究班研修会報告

テーマ 令和5年度 埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告と解説(微生物)

主催 微生物検査研究班

実施日時：2024年4月12日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：フォトサーベイ

講師 1：佐々木 真一（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

講演 2：同定検査

講師 2：大塚 聖也（埼玉医科大学総合医療センター）

講演 3：薬剤感受性検査

講師 3：渡辺 駿介（深谷赤十字病院）

講演 4：グラム染色

講師 4：伊波 嵩之（さいたま赤十字病院）

参加人数：会員20名 賛助会員6名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井英美 岸井こずゑ 佐々木真一 伊波嵩之
渡辺駿介 山本早紀 大塚聖也

研修内容の概要・感想など

今年度最初の研修会を「令和5年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説(微生物)」をテーマに開催した。フォトサーベイ、同定検査、薬剤感受性検査、グラム染色について各出題担当から結果報告と解説があった。

フォトサーベイでは、*Edwardsiella tarda*を出題した。本菌は、腸炎や創傷感染の原因菌であり、免疫不全患者などで重症化することが知られている。*Salmonella Paratyphi A*や*Proteus mirabilis*と回答した施設があった。*Edwardsiella tarda*とは、インドール産性能やVP反応に違いがあるため基本的性状を再確認していただきたい。同定検査では、*Listeria monocytogenes*を出題した。*L. monocytogenes*は、髄膜炎、敗血症、食中毒などの起炎菌となり、妊婦の感染では胎児に垂直感染を起こすことがあるため同定は不可欠である。*S. agalactiae*と回答した施設があった。*L. monocytogenes*とは、グラム染色およびカタラーゼ試験を実施することで鑑別が容易に可能である。薬剤感受性検査では、*Enterococcus faecalis* VRE (ATCC51299) と*Escherichia coli* ESBL (臨床分離株)を出題した。AmpC/ESBL鑑別ディスクを用いた施設で、ESBL陽性・AmpC陽性との回答が1施設あった。出題した菌株の薬剤耐性はESBL産生のみであり、AmpC型β-ラクタマーゼの過剰産生は認められていない。添付文書を熟読し、操作方法や判定方法について再確認していただきたい。また、回答の不等号の表記は指定した不等号の使用が望まれる。グラム染色では、*Pseudomonas aeruginosa*を出題した。全ての参加施設が、グラム陰性桿菌と回答する非常に良好な結果であった。各設問において評価が低かった施設は、問題点を見直し、改善していくことが必要である。最後に無回答の場合は、評価Dとなるので参加申し込み時から注意していただきたい。

(文責：小棚雅寛)

テーマ 令和5年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告(血清)とphiについて

主催 血清検査研究班

実施日時：2024年4月18日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：令和5年度 埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告(血清)

講 師 1：岡倉 勇太(株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所)

講 演 2：前立腺癌診断に有用な新規項目「プロステートヘルスインデックス(phi)」について

講 師 2：増川 陽大(ベックマン・コールター株式会社 学術クリニカルアプリケーションズ部)

参加人数：会員10名 賛助会員2名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 深田愛 森圭介 吉田萌香

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は2演題で構成され、まずは岡倉氏から令和5年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業の報告があった。

調査項目は昨年同様の項目に加え、参考調査としてフェリチンとCA19-9を行った。フェリチンの集計結果は測定装置・試薬間差が大きく、目標値と参加施設平均値に差を認めるため、適切な目標値設定が今後の課題であるとのことだった。またCA19-9の集計結果はメーカー間差が著しいが、測定機器・試薬内では収束しているため、次年度から評価対象とするか検討中である。CA125・CA15-3は実施状況の確認のみであったが、次年度から参考調査とするか検討中である。

その他、例年行われている調査項目については全体的に良好な結果であったが、測定法の誤入力・未入力や未回答などが認められた。測定法間違いについて昨年度は「評価対象外」とした。本年度は測定法や測定値の誤入力や試料の取り間違いなどを注意し、間違いのあった施設では測定時・入力時の確認方法の改善を行っていただきたいとのことだった。

増川氏からは新規項目「プロステートヘルスインデックス(phi)」について測定意義や特徴・今後の展望など幅広い講演内容であった。

前立腺癌は男性の部位別がん罹患数が最も多く、高齢になるにつれその罹患率は上昇する。罹患数は2005年から急増しているがその背景の一つに健康診断項目でもある腫瘍マーカーPSAの普及がある。

前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSAは前立腺の腺上皮細胞から分泌される糖蛋白質である。臓器特異性の高い腫瘍マーカーとして知られているが、PSAのグレーゾーンである4~10ng/mLの前立腺癌発見率は20~28%と低く、がんの特異性の高いバイオマーカーが求められている。Phiはがん組織に特異的に発現するPSAの前駆体にあたる[-2]proPSAを加えたインデックス数値であることを特徴としている。2021年11月より保険診療での使用が可能になり、従来から使用されているPSAや%fPSAと比べ、グレーゾーン領域における不必要な針生検を削減することができ、前立腺癌の見落としも少ない。また悪性度(グリソンスコア)と関連し、がんと非がんの鑑別だけではなく、悪性度の評価にも有用である。ただし測定安定性が低く、全血室温保存では経時的に高値を呈するため、注意が必要である。

今回は精度管理調査報告、また新規腫瘍マーカーについてなど多岐にわたる内容であった。phiは近年注目されている新規マーカーであり、臨床研究報告も多数見受けられ、今後の発展に期待すると共に、これらの情報を自施設でも有益に活用していきたい。

(文責：渡邊剛)

テーマ **令和5年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告(血液)**

主催 血液検査研究班

実施日時：2024年4月26日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティセンター 第13集会室 教科・点数：基礎教科ー20点

講演 1：フォトサーベイ回答・解説

講師 1：堀口 大介（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 2：血液検査の基本の見方

講師 2：加藤 鉄平（埼玉県済生会加須病院）

参加人数：会員19名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 吉澤悟 加藤鉄平
島田崇史 窪田勝己 山崎淳也

研修内容の概要・感想など

講演1では、堀口氏によりフォトサーベイの回答・解説が行われた。設問は5問あり、それぞれの回答の集計結果と共に、細胞の特徴、注意すべき検査結果について解説があった。写真1～4は慢性骨髄性白血病の症例で、好塩基球、単球、骨髄球、好中球分葉核球と日常検査でもよくみかける基本的な細胞が出題され、特徴が似ていて間違いやすい細胞についての注意点も解説があった。写真5は骨髄異形成症候群（MDS）で見られた環状鉄芽球が出題され、WHO分類第5版における変更点にも触れながら、他の疾患との鑑別について解説があった。講演の終わりにはこれから血液検査に従事する初級者へ、取り組み方や血液像を習得するまでの流れについて話があり、新人教育にも参考になる講演であった。

講演2では、血液検査の見方や考え方について、実際の症例を見ながら、検査に携わる際の注意点について解説があった。取り上げた症例は、フィブリン析出により血小板の偽低値を示したものや、鉄欠乏性貧血、自己免疫性溶血性貧血、寒冷凝集、急性前骨髄球性白血病、成人T細胞性白血病などであり、自動血球分析装置から得られる情報と血液像から得られる情報を総合的に考える必要がある。正しい検査結果を得るためには自施設で使用している自動血球分析装置の特性を理解することが大変重要である。また、疾患を考える上で血算の検査値だけでは足りないため、血液像で見られる異常細胞についての知識や他分野の検査値の変動を読む力が必要である。様々な検査値について理解するためには、外部精度管理や研修会に積極的に参加し、知識や考え方を深め、自らが担当する分野に還元していかなければと改めて考えさせられた研修会であった。

(文責：加藤鉄平)

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第2回 理事会議事録**

日時：令和6年5月9日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 松尾 佐瀬 網野
三木 塚原 神嶋 伊藤(恵)
伊藤(隆) 長岡 久保田
長谷川 石井 神戸 小林

(監事) 遠藤 細谷

Zoomにて出席

(理事) 阿部

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年4月11日～令和6年5月8日)

4月11日(木) 令和6年度第1回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、細谷

4月13日(土) 日臨技執行理事会(第1回)：神山

4月13日(土) 日臨技新型コロナウイルス感染症対策会議：神山

4月13日(土) 日臨技会長会議：神山、松岡

4月15日(月) 日臨技支部学会説明会：神山

4月17日(水) 埼臨技会計監査：神山、松岡、

神戸、石井、小林、遠藤、細谷

4月18日(木) 第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

4月21日(日) タスクシフト指定講習会

(埼玉県 024)：猪浦、山口、松寄、伊藤(恵)、神嶋、三木、佐瀬、小林

4月22日(月) 表彰審査選考委員会：神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、松寄

4月23日(火) 災害時応援協定の締結を促進するためのWeb説明会：

松岡、猪浦、濱本、長澤、松寄、塚原、長岡、伊藤(隆)、石井、小林

4月25日(木) 日臨技災害対策会議(第11回)：神山

4月25日(木) 日臨技第1回精度保証・標準化部会：神山

4月26日(金) 日臨技理事会事前会議(第1回)：神山

4月26日(金) 日臨技支部長連絡会議(第1回)：神山

4月27日(土) 日臨技理事会(第1回)：神山

4月27日(土) 日臨技役員勉強会(第1回)：神山

4月27日(土) 宮島会長旭日中綬章受章祝賀会：神山

4月30日(火) 埼玉県医療整備課精度管理打ち合わせ：神山

5月2日(木) 日臨技執行理事会(第2回)：神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 4月22日(月) 令和6年度第1回表彰審査選考委員会を開催した。(別紙資料1)

2) 4月23日(火) 第18・19回生物試料分析科学会関東支部学術集会の後援依頼について承諾回答した。

3) 4月26日(金) CDEL埼玉認定講習会の後援依頼について承諾回答した。

4) 4月27日(土) 宮島喜文氏旭日中綬章受章記念祝賀会に神山清志会長を派遣した。

(別紙資料2)

5) 4月30日(火) 埼玉県医療整備課の佐野主幹、田端主事が浦和医師会館に来訪。精度管理担当であった池田主事が転勤のため田端主事に担当が変更となる。

6) 当会から推薦した島村益広氏(関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)が、瑞宝双光章受章の通知があった。

2 総務部

1) 4月21日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県 024)を開催した。(別紙資料3)

2) 5月15日(水) だより第540号発行予定。

3) 6月16日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県 025)を開催予定。運営責任者は猪浦一人副会長。

3 事業部

1) 令和6年度わらび健康まつりについて参加

で回答した。

2) 新入会員向け研修会について

7月5日(金) 19:00~20:30

講演1: 臨床検査技師会とは?

～埼臨技について～

講 師 : 松岡 優 (埼玉医科大学病院)

講演2: 先輩技師に聞く

～患者様とのコミュニケーション

生理機能検査、採血業務を

通じて～

講 師 : 関森 なつみ (自治医科大学附

属さいたま医療センター)

4 学 術 部

1) 4月30日(火)「6月・7月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。

5 精度保証部

特になし

6 会 計 部

1) 4月17日(水)会計監査を実施した。

(別紙資料4)

2) 令和6年度正会員費1名5,000円、再入会金1名1,000円、令和6年度正会員費3,437名17,185,000円、入会金15名15,000円、再入会金2名2,000円、合計17,202,000円の入金があった。

3) 日臨技に2024年度都道府県向け臨床検査精度管理調査用資料代ならびに梱包包材および運送費用として823,683円を支払った。

4) 石井印刷に埼臨技会誌Vo.70-No.3印刷代415,140円、仕分費25,762円、埼臨技だより539号Web版16P、77,000円、封筒代60,000円、合計578,402円を支払った。

5) H&Tに会員管理システム年間保守費用として220,000円を支払った。

6) 極東製薬工業より令和5年10月1日～令和6年3月31日までの擬似便の特許使用料対価16,675円の入金があった。

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

1) 4月13日(土)日臨技会長会議が開催された。
(別紙資料5)

2) 4月23日(火)災害時応援協定の締結を促進するためのWeb説明会が開催された。

(別紙資料6)

11 第52回埼玉県医学検査学会

1) 4月18日(木)第7回実行委員会が開催された。
(別紙資料7)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1) 会員動向(令和6年度分)

令和6年5月1日現在

会員数 3,574名[令和5年度会員数3,572名]

(新入会員 89名)

賛助会員 29社[令和5年度 71社]

承認された。

2) 令和6年度埼玉県公衆衛生事業功労者表彰被推薦者の選出について

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。

3) 表彰・選考審査規程細則の改訂について

(別紙資料8)

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

1) 70周年記念誌発行について

(1) 冊子で発行する。

(2) 各施設、賛助会員、自宅会員に配布する。

上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2) 令和6年度会員名簿作成について(だより掲載文) (別紙資料9)

上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、クエスタントのアンケートフォームを追加修正することで承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 臨床化学検査研究班班員の退任・追加及び役務変更について

退任: 松重 萌衣 氏 (株式会社TLC

戸田中央臨床検査研究所)

追加: 関根 梢恵 氏 (上尾中央医科大学グループ白岡中央総合病院)

生涯教育履修の有無は不明

会計変更: 松重 萌衣 氏から田中 満里奈 氏 (地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センター)へ変更

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 令和6・7年度精度管理解析実務委員について (別紙資料10)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 52回学会からの上程事項について

- (1) 52回県学会で各研究班に講演等の依頼をしたい。
- (2) 学生向けランチョンセミナーの講演を青年部に依頼したい。
- (3) 演題募集開始のPRスライド使用を研究班に依頼したい。
- (4) 学会ポスターサイズについて
ポスターサイズが大きく展示場所が限られている。また、実行委員会でも半数の施設で外部向けに院内掲示できるスペースがないため、A2からA3にサイズダウンしたい。

- (5) 令和6年度定時会員総会にて学会実行委員会よりアナウンスしたい。

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局

- 1) タスクシフト/シェア指定講習会運営委員会の設置について

上記の件について、猪浦一人副会長より発言があり、審議の結果、専門委員会として委員会を設置することが可決された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

突然ですが、小説「舟を編む」をご存じでしょうか。映画化され、最近ドラマ化もされました。辞書を作る編集部の話ですが、ドラマをみて「日本語は、奥が深く素敵だな」と感じました。

話の質はちょっと違うかもしれませんが、埼臨技だよりの担当をしておりますと「日本語は奥が深く難しく面白い・・・」感じるが多々ありました。

たとえば、「有意義」使い方、「癌」と「がん」、「こと」と「事」、「でき」と「出来」、「回答」と「解答」の使い分け等々です。だよりを担当することで、意味を理解することができました。ご興味ある方は、調べてみてください。

送られてくる原稿では、楽しさが溢れている文章、緊張感が伝わってくる文章や単語を厳選し簡潔に表現する文章、一文に色々な情報を詰め込んだ文章など様々な文章に出会うことができました。それぞれ表現は異なりますが「伝えたい」気持ちは十分詰まった文章でした。

私事ですが、今号をもちましてだより担当を卒業することとなりました。これからは、また1読者に戻りだよりを書見したいと思います。ありがとうございました。

(松尾 記)

